

令和7年度 第3回 中能登町立鳥屋小学校 学校運営協議会 会議録

【日 時】	令和8年1月29日(木) 13:45~16:00
【会 場】	中能登町立鳥屋小学校 会議室
【出席者】	北野 俊樹、北村 和江、澤 祐紀恵、干場 和代 学校長、横山 隆信 渡部 勇太(50音順) 学校代表者：大橋 亜紀子 教頭
【欠席者】	石過 良則、岡島 昇
【事務局】	学校教育課：山森担当課長 横山主事 生涯学習課：寺西主査 山口
【次回予定】	未定

【進行】鳥屋小学校：大橋教頭

1. 開会あいさつ

《横山会長》

お忙しいところご参加いただき、ありがとうございます。今年度最後の協議会になるので、よろしく申し上げます。

2. 学校経営報告について ～干場学校長・大橋教頭より、資料を基に説明～

本日は授業参観、学校運営協議会にご参加いただき、ありがとうございます。

一年間、本当に早いと感じている。鳥屋小学校に赴任して、もうすぐ一年になるが、自分が立てた学校経営計画がどこまで実現できたのかというと、正直、十分ではなかったと感じる部分もある。本日のこの場で、皆様からご意見をいただきながら、来年度につなげていきたい。どうぞよろしく願いいたします。

①後期保護者アンケートについて

- 全体的には前期より評価が上昇。学校と家庭、子どもと学校の関係性に評価をいただいた。一方で、子どもの安全確保などについての評価が減少。改めて気を引き締めて、いろいろな方面から対策を考えていきたい。
- 子どもたちの家庭での学習習慣・生活リズムなどについて、前期より評価が低くなっているが、学校でも引き続き指導していきたい。また、インターネットやオンラインゲーム、SNSの利用について、相談も増えていることもあり懸念している。

②後期児童アンケートについて

- 3学期から子どもたちの会話を活性化させるため、「聞くんジャー」という取組を活用して意欲的に発言・傾聴するように促している。挨拶についても、少しずつ習慣化してきているので、継続して取り組んでいきたい。

③後期教員アンケートについて

- 教職員の自己評価では、情報発信や保護者・地域との共有が課題として見えてきた。ホームページについては、担当を分散し、少しずつ改善に向けて動いている。
- 働き方改革についても、少しずつだが、早く帰ろうという意識が広がってきた。時間的にも、身体的にも、余裕がないと、子どもへの声かけにも影響するので、今後も大切にしていきたい。

④総括

- 自己肯定感を高める活動を多く実施。縦割り班活動や異学年交流の有効性を感じている。
- 基礎的・基本的な学力の定着は不十分。時間の確保や指導方法の工夫が課題。
- 地域のご協力のおかげで教育活動が充実し、教職員の働き方改革にも一定の成果があった。

3. 協議

①CS実績報告 ～寺西主査より、資料を基に説明～

- 一年を通して一番大きな取組だったのは、150周年事業。学校運営協議会の委員の皆様にもご意見・ご協力をいただき、良いセレモニーになったのではないかと。
- 通学路・校内の安全確保についても、危険箇所を整理でき、情報共有ができた。
- 今年度もクラブ活動や授業・学校行事など、多くのサポーターの方に入っていた。専門的な指導や温かい見守りをしていただいたおかげで、子どもたちの活動がより充実したものになった。

《意見等》

- 日本文化を学ぶということで、2年生が抹茶体験（茶道）を実施。地域の保護者の方から、「とても良い学びだった。またやってほしい。」という声をいただいた。可能であれば、新年度もカリキュラムの中に入れてもらいたい。
⇒礼儀やおもてなしの心を自然に身につけている姿も見られた。検討していきたい。

②令和8年度に向けた教育支援・環境整備について ～干場校長・大橋教頭より説明～

- 「ながら見守り」の取組について、とても良い取組ですねと評価していただいている。今後も学校運営協議会の委員の皆様と一緒に、継続して取り組んでいきたい。
- 今年度、特に大変だったのが、プール清掃。大・中・小の3つのプール、排水溝と更衣室など、児童と教職員だけでは負担がとても大きいと感じた。来年度は除草作業やプール清掃の際に、地域や保護者の方にもボランティアとしてお声がけできないかと考えている。
- 「町たんけん」や校外学習などでも、見守りとして参加していただける形を検討していきたい。子どもたちにとっても、たくさんの方に見守られることは安心につながる。

《意見等》

- プール清掃が大変なのであれば、3つのプールを使うということをやめてはどうか？
⇒濾過器のシステムが繋がっているため、3つとも清掃する必要がある。
⇒防火の関係でも、プールの水は溜めておく必要がある。
- コミュニティ・スクールが活発になり、授業サポートに多くの外部の人が入っているが、外部の人が入ることで、逆に学校が大変にならないか心配。
⇒助かるという教員もいるが、大変だと思う教員もいるというのが正直なところだが、いろいろな方がサポートに入ってくださることで学習の充実に繋がっている。学校側としては、サポートが必要な時に入っているため、全面的にとっても助かっている。
⇒学校と事務局の関係がうまくいっている。
⇒コミュニティ・スクールは学校の困りごとをサポートするだけではない。教育支援活動に参加していただいているサポーターの皆さんのやりがいにも繋がっている。

③学校運営協議会規則の改定について ～山森担当課長より、資料を基に説明～

- 国や県の方針により、教職員の業務削減や健康管理について、学校として具体的な取組を学校経営計画に明記することが求められた。そのため、学校運営協議会規則にも関連する内容を追加する必要があり、来年度に向けて承認をお願いしたい。
- 教職員が心身ともに健康であることが、結果的に子どもたちのためになると考えているので、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

5. 学校評価・閉会あいさつ

《澤副会長》

本日はお疲れ様でした。

今年度は150周年事業が良い形で終われたことが、とても良かった。鳥屋小は地域の方とのつながりがとても強い。今後も、継続して取り組んでいけたらいい。

どうも、ありがとうございました。